

G20岡山保健大臣会合開催記念 岡山市地域ケア総合推進センター 在宅医療普及啓発イベント

『最後まで自分らしく暮らすために』

～在宅医療・介護あんしん岡山市モデル～

日時：令和元年8月18日(日) 13:30～16:00 場所：岡山県医師会館三木記念ホール

- 13:30～13:40 開会
- 13:40～14:30 片岡仁美先生 講演
- 14:40～15:55 パネルディスカッション・質疑応答
- 16:00 閉会

開会あいさつ

〔 岡山市保健福祉局
局長 福井 貴弘 〕



●講演

『住み慣れた地域で最後まで安心して暮らすために』

【講師】 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
地域医療人材育成講座教授 片岡 仁美氏



◎当日は、250人の市民の方が熱心に講演・パネルディスカッションを聴かれました。



● パネルディスカッション

『住み慣れた地域で最後まで安心して暮らすために』

～在宅医療提供体制(南区西地域・中区地域)の取り組み～

【コーディネーター】片岡 仁美氏

【パネリスト】岡山旭東病院

重井医学研究所附属病院

うちおグリーンクリニック

氏平医院

てらだ内科クリニック

院長 土井 章弘氏

院長 真鍋 康二氏

院長 青景 和英氏

院長 氏平 徹氏

院長 寺田 亮氏



取り組み発表

(発表順)



重井医学研究所附属病院 院長 真鍋 康二氏

「南区西在宅医療・介護サービス提供体制のあり方検討・
構築WG及びモデル事業について」

うちおグリーンクリニック 院長 青景 和英氏

「かかりつけ医が在宅で患者さんを支えるために
一当院で行っている診療所間の連携」



(発表順)



岡山旭東病院 院長 土井 章弘氏

「中区在宅医療・介護サービス提供体制のあり方検討・構築WG及びモデル事業について」

てらだ内科クリニック 院長 寺田 亮氏

**「住み慣れた地域で最期まで安心して暮らすために
～在宅医療提供体制の取り組み（中区）～」**



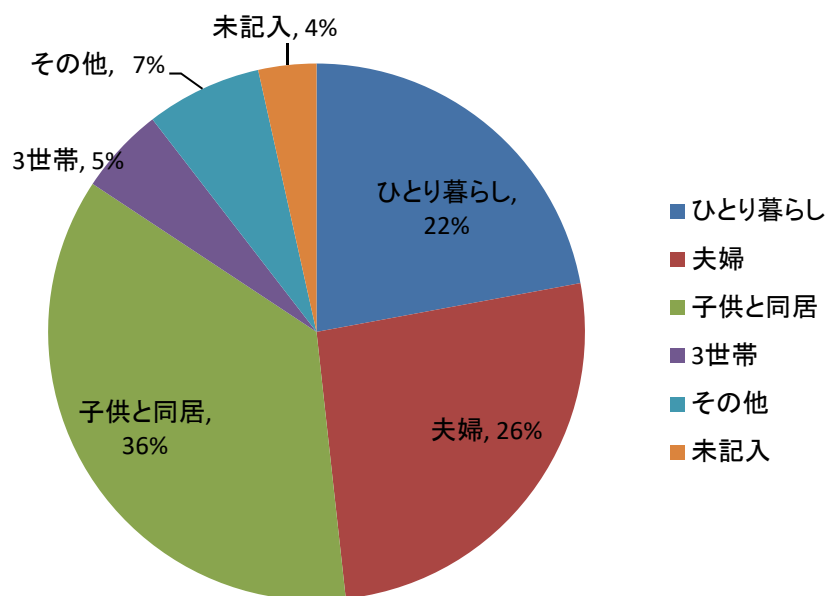
氏平医院 院長 氏平 徹氏

「中区在宅医療・介護サービス提供体制モデル事業に参加して」

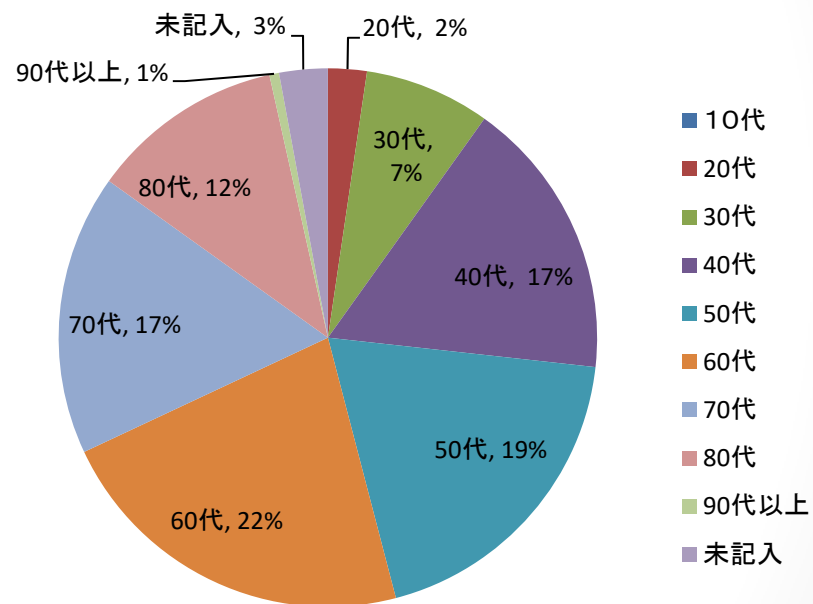


参加後のアンケート

世帯構成



年代



回収：172枚

講演についてご感想をお聞かせください。

【内容について】

- ・大変多くの知識を伝えてくださり、非常にわかりやすくご説明していただいた。
- ・アドバンス・ケア・プランニング、もしもカレンダー、親ブック、ユマニチュード、参考になった。
- ・岡山市の高齢者の現状について具体的な数字で把握することが出来た。
- ・心のこもった私たちのことを本当に思ってくれている人だからこそできるようないいお話だった。
- ・在宅医療の意義、心構えが分かった。在宅について関心を持つことが出来た。
- ・地域、医療、自分自身、家族の4つの力で考えてみることがわかりやすかった。
- ・親の介護等の問題が今後でてくると思われる中大変参考になる講演だった。
- ・医師の在宅医療についての直接の意見を聞くことができ良かった。
- ・社会的背景等医療の現状、今後の進むべき方向等よくわかった。
- ・本人、家族の希望を叶えるための医療体制の充実に期待するとともに、個人の善意によるものではなく、日本の医療体制の中で重要性がきちんと評価される必要があると思った。

【気づき】

- ・在宅で過ごすための力が何が必要か分かった。今後の生活について参考になった。真剣に考えたい。日頃の準備が重要。
- ・今後、地域の中でどう自分が活動していくのがよいのか、何をすべきか等を考える機会が持てた。
- ・住み慣れた地域で最後まで安心して暮らすために、地域、自分自身、家族それぞれの立場で、今何ができるのか、何に備えていけばよいのか改めて考えるきっかけになった。
- ・ヘルスリテラシーを高め、ひとりひとりが家族として、本人として、健康について知識を高めることやかかりつけ医をつくり、健診を受けること、どう死にたいかではなく、どう生きたいか、元気なうちに話し合っ、好きなもの好きなことを周りの人に知ってもらっておくことが大切だと思った。
- ・家族と患者の意思が統一されていることが必要。

【連携】

- ・かかりつけ医と病院との連携の充実が今後急務になっていると感じた。多職種協働・連携が大切と思った。
- ・地域で安心して暮らしていくために、自分の持っている力も大切だが、人と人とのつながりがより重要。
- ・認知症の方の関わりについて、家族や地域の関わり、協力の重要性が理解できた。
- ・在宅医療をすすめるために、地域の医療機関が連携することの大切さがよく分かった。
- ・地域、住民との関係が必要だと感じた。

【ユマニチュード】

- ・ユマニチュードのお話は、とても興味深く聴かせていただきました。詳しく勉強したい。
- ・「今何時？」と聞かれた時の対応について、否定しないで、決して話をそらすわけでもなく上手く話題をかえるというコミュニケーションが印象に残った。
- ・今後の仕事に役立てたい。

在宅医療・介護あんしん岡山市モデルについてご意見をお聞かせください。

【内容全般】

- ・先生のご苦勞が分かった。出来る範囲でよろしくお願ひしたい。
- ・ネットワークの大切さが良く分かった。垣根を越えた関係づくりをと思う、情報共有をどのようにするのかかがカギ。
- ・モデル事業について、大変参考になった、安心体制にもっとしてもらいたい、勉強になった、必要性を痛感した。
- ・現状と課題について 社会の中で利用できる資源について改めて学ぶことが出来た、今後の地域包括ケアシステムの充実のためにも頑張っていきたいと強く感じる学習となった、情報を知って参加したいと思った。

【在宅医療・介護サービス提供体制について】

- ・モデル事業等の取り組みや取り組まれていること、有効性を知ることができた、理解できた。
- ・岡山市も医師会も各医師も前向きに在宅医療を進めてくださっていることが分かって安心した、理解できた、安心して住み慣れた地域で暮らすことが出来ると思う。
- ・良い取り組み、頑張っしてほしい、地道な一歩が大切、期待している、もっと定着すればよい、継続発展が大切。
- ・市民がこのモデル事業について自然と見聞き出来るようになり活用できるといい、県全体に広がって地域性を活かした取り組みになればいい、専門職として、地域住民として参加したい。
- ・一人一人が自分事として考えられるようネットワークを大切に広げられるといいなと感じる。
- ・パネリストそれぞれの熱い思いが伝わった。この体制がうまく機能していくことを願う。
- ・一人で24時間365日患者さんに対応するのは無理というフレーズが考えれば分かることのように、あまり理解しているとは言えなかったと気づいた。持続可能な体制づくりのためにはそういった事もきちんと考えながら行わないといけないと感じた。
- ・診療時間外での患者の体調不良 急変時に訪問診療医にどこまで求めて良いのか、相談していいか悩むが、かかりつけ医への連携をしてその後グループ医の存在があると安心だと強く感じた、グループで患者を診ることは、患者の安心・医者への安心につながると思った、訪問診療の医師が連携することで在宅の支援もスムーズになる。
- ・24時間365日対応を何とか実現するための工夫として、モデル事業が始まった事が分かった、顔の見える連携、地域を再生していくことが大切だと思った。
- ・一番問題になるのは緊急時の対応だと思われる。そんな時、登録バックアップ病院で見えてくれることは受け入れ側も安心であり、在宅の先生と病院の先生どちらにもメリットになると思われる。
- ・もっと在宅医療をしてくれる医師が増えて、安心した在宅医療ができるよう取り組みを進めて欲しい。
- ・徐々に「最後まで自宅で暮らす」ことが可能なシステムが岡山市でも構築されていることに感動した。「くらしの保健室」のようなものが岡山でもあって欲しい。

【各エリアの状況】

- ・重要な課題。地域格差がないように各区での取り組みを進めてほしい。期待している。
- ・中区南区西及び、岡山市医師会の取り組みの現状を知ることが出来た。24時間対応 365日をどう連携するかそのためには患者・家族にどう自助できるかも一緒に考えたいと思った。
- ・患者基本情報の共有シート大切。
- ・医療同士の連携や多職種連携を進め継続した医療・生活の充実が図れると良い。介護との連携もあると在宅医療が進むと思う。
- ・医師同士のつながりは今までであったと思うが患者さんを介した連携が中区と南区西でこんなに広がっていることを知り驚いた。

その他のご意見・ご感想

【感想】

- ・もっとじっくりお話が聞けたらよかった、ありがとうございました。
- ・かかりつけ医をすすめることも必要と感じた。
- ・取り組まれている先生方 病院さん えらいと思う、関係者の方のご協力に頭が下がります。
- ・各地での取り組みが聞け、とても勉強になった、医師の現状、リアルな声が聞けた、在宅医療について学ぶことが出来た。
- ・最期まで自分らしく暮らしていくために、ご本人を中心に医療・介護他地域の見守り等必要となるが、ネットワークを大切にしていって連携を図りながら、顔も見える関係を作り支援していく、気づきを得た。
- ・家族が遠いので、やはり日頃から話し合いの必要と準備がいることを痛感した。
- ・信頼関係を築いていくことの大切さを改めて知った。家族も連携の一員なんだと知りました。
- ・同エリアまたは、別エリアで同時にWGを開催していくことで、競い合い、名案が生まれる可能性を期待しました。
- ・地域での連携に参加出来るよう働いていきたい（訪問看護師）

【広報】

- ・内容をテレビでも周知下されるとよいと思った。今後普及啓発がさらに必要だと思う。
- ・一般市民への広報をしっかりして周知された中で、医療や生活の場を選択できるようになると良いと思う。
- ・専門職団体にももう少し発信されても良い。冊子が出来た事はとても分かりやすく良い。活用されるといいと思う。
- ・現在の問題に対し、岡山県全体、市民一人一人の意思改革も求められます。本日のような市民メッセージを定期的で開催していただくと私達病院も支援しやすくなると思う。
- ・自分の地域のケアセンターの事、詳しく知る必要が。一般住民に分かり易くお知らせして欲しい。
- ・継続して在宅医療のイベントをお願いしたい、今後もモデル事業の報告を兼ねてこのようなイベントをしてほしい。

【講師について】

- ・様々なネットワーク・マンパワーが大切だと感じた、先生方の熱い思いが良く分かった。
- ・講演タイトルについてざっくりとした知識がありましたが、片岡先生の学術的な視点を入れたお話や医師の先生の実際の取り組みの生の話を聞けて勉強になった。

【市の取り組みに対する要望】

- ・認知症等がん以外の患者にも対応出来るよう広げてもらいたい。
- ・高齢者は自分のこととしてこういう話を聞くことが多いが働く世代や若い人にも関心を持ってほしいので、健康診断などで話をするとか工夫が欲しいです。